

商店街に先端企業集積

まちづくり基金 2つの提案事業を審査

大牟田市まちづくり基金事業審査委員会(委員長、加藤浩司、有明高専建築学科准教授)が十三日、市役所北別館であり、銀座通商店街振興組合(内田康雄理事長) 大牟田大蛇山祇園継承会(田中丸栄治会長)が提案した事業を審査した。審査結果は古賀道雄市長に報告。報告を受け古賀市長が最終判断する。



審査会のプレゼン

このうち銀座通商店街が提案したのは「まちなかシリコンバレー構想」。商店街と有明高専電子情報

工学科の石川洋平准教授の研究室が連携。空き店舗の一階部分で有明高専の学生や社会人が勉強会や交流会を開催したり、高齢者を講師に招いた講演会、有識者を招いたビジネススクールなど起業家育成支援の教育など「サロン事業」に取り組み。将来的にはNPO法人化を目指す。二階部分ではIT系企業を誘致。一階部分のサロン事業の後方支援を期待できる企業や優秀な人材を大牟田にとどめ、アメリカのシリコンバレーのような先端産業が集積するように促進するのがねらい。

内田理事長や石川准教

授らは「将来的には高専の学生が街なかでビジネスアイデアを実現できるようになれば、もっと商店街も活性化するのは」と話した。